みんなで乗り越えよう！手作りマスクで応援！

松本支部「手作りマスク」レポート

新型コロナウィルスの影響で、世界中が思いもよらない事態になり、県シニア大学 OB、賛助会員の皆さんも「いつもの活動ができない。」「日々の情報を見るだけでも、不安になってしまう。」というつらい日々が続いています。
「ボランティア活動として、何かできることはないか？」と思っている方も多くいました。
松本支部から、シニアの活動紹介をします。

【県シニア大松本学部43期　有志】

県のシニア大学が休校となり、本来なら2年生の皆さんです。
休校中も社会活動推進員がつながりを持ち続けるようにと、学部通信を発行したり、個別の相談に応じています。
そんな中、松本地域子ども応援プラットホームを通じて、活動団体から、子ども用のマスクが不足しているとの情報があり、シニア大生に伝えたところ、有志が早速応じてくれました。
マスクを作る材料が不足していた5月、ゴムを工夫したり、かわいい刺しゅうを付けたりと、心のこもったマスクが届きました。

7 月、子どもの自然体験活動をしている NPO 法人に寄贈しました。
体験活動の中で、忘れてきたり、汚してしまったりと、子どものマスクはとてもありがたい。
大切に使わせていただきます、とのことでした。

【松本地区賛助会グループ　チャームシルク】

県シニア大を卒業した女性グループ。
着物や帯をリメイクして、トートバッグや小物を作り、イベントなどで販売した売上金を、障がい者支援施設他に寄付をしています。
コロナ以前にも、他のボランティア団体とつながって、子ども向けに給食袋、巾着袋、ランチョンマットの3点セットを作って寄付したことがきっかけとなり、今回子ども用のマスクを作りました。

メンバーが集まることを避けるため、作業工程を分けて、各自が自宅で作りました。
最後の仕上げ（アイロンがけ、個包装）を、グループ長宅ですることで、短時間にできました。

作成期間中は、ちょうどマスク不足、材料不足の真っただ中。
メンバーの自宅にあった、未使用の布も活用し、ゴムひもなどの調達に苦労しながらの作業でした。
そうして作ったマスク合計256枚を、かねてから交流のあった、子ども食堂のボランティア団体、児童養護施設、特別養護老人ホームなどに寄贈しました。

途中、ミシンが壊れる！というハプニングもありましたが、グループ本来の活動ができない中、マスク作りを通してささやかな社会貢献ができたことは、何よりうれしいことでした。

（公財）長野県長寿社会開発センター　松本支部
長野県シニア大学松本学部　担当：花﨑・大塚